

第8回名大郷土研究会 OB 会総会イベント

～ 犬山城とその城下町を訪ねて ～

案内人 柴田

- 1 日 時 2016年6月11日(土) 13:30～16:30
- 2 場 所 犬山城とその城下町
- 3 参加者 ○○ 名
- 4 踏査コース

- ① 名鉄犬山駅スタート 13:40 (改札口 13:30 集合)

- ② 駅西口から木之下城跡へ 13:43 (駅から3分) 約10分

木之下城は、1469年に織田広近が城砦を築いたのがはじまりとされる。以後、代々織田氏が居城したが、六代目の織田信康(信長の叔父)が1537年に木之下城を廃城し、犬山城付近に城を移したとされる。木之下城跡には愛宕神社がある。

- ③ 登録有形文化財・堀部邸へ 13:56 (木之下城跡から3分) 約10分

堀部邸は、犬山城主を支えた士族の堀部一族が明治のはじめの時過ごした場所。敷地約405坪、武家屋敷風の格調高い雰囲気の中に屋敷内で生業を営む農家の素朴さが取り込まれた独特の風情を持つ建物で、入り組んだ建物の構図からは、城下町での生活が伺える。

- ④ どんでん館へ 14:08 (堀部邸から2分) 約15分

どんでん館では、国指定重要無形民俗文化財の犬山祭で曳かれる車山13輛のうち4輛が展示されている。車山が城下町の辻で豪壮に方向転換する様子を「どんでん」と呼んでいる。

- ⑤ 登録有形文化財・旧磯部家住宅へ 14:24 (どんでん館から1分) 約15分

旧磯部家住宅は、江戸時代から「柏屋」の屋号で手広く呉服商を営んでいた商家で、太平洋戦争後、呉服商から製茶・販売業に転じた。後に生活の本拠は他に移し、建物は商品倉庫とされていた。建物は幕末から明治初年にかけて建築されたもので、復原施設は、主屋、裏座敷、土蔵、奥土蔵、展示蔵の5棟の建物で構成されている。

- ⑥ 城とまちミュージアムへ 14:47 (旧磯部家住宅から8分) 約15分

公益財団法人・犬山城白帝文庫は、国宝犬山城天守及び旧城主成瀬家伝来の美術工芸品・古文書等を調査研究・保存・公開し、犬山の文化発展に寄与することを目的として平成16年4月1日に財団法人として設立され、25年4月1日に公益財団法人に認定された。

城とまちミュージアム内には、財団の「歴史文化館」があり、犬山城の所有者であった成瀬正俊氏が国宝天守閣とともに、伝来の武器・武具・会

画・工芸品・古文書・絵図などを一括寄付した資料を常設展示、年2回、テーマを設けて企画展・特別展を行っている。

- ⑦ 別館「からくり展示館」 15:03（ミュージアムから1分） 約15分
からくり展示館には、「座敷からくり」や「山車からくり」を展示している。

- ⑧ 国宝犬山城天守閣へ 15:21（からくり展示館から3分） 約40分
犬山城は、信長の叔父である織田信康が1537年に木之下城を移して築城したと伝えられている。1565年信長は、従弟の犬山城主織田信清と対立し、一族の領地争いで犬山城を攻略した。1581年信長の四男・勝長が城主となったが、本能寺で信長と運命を共にした。1584年、「小牧・長久手の戦い」がはじまり、秀吉軍が入城した。1617年徳川家康の重臣成瀬正成が拝領。以後、成瀬家が9代にわたり城主となった。

初代成瀬正成は、1567年成瀬正一の長男として三河国に生まれ、幼少の頃より家康に小姓として仕え、1615年頃、徳川義直の傳役となり、同年から竹腰正信とともに付家老として尾張藩政に携わる。1617年、徳川秀忠から犬山城を拝領、2万石となり、その後加増により3万石となった。三代政親の時にはさらに加増され、石高が3万5千石となった。領地は現在の犬山市を含む旧丹羽郡一帯を治めていた。

- ⑨ 有楽苑と国宝茶室如庵 16:06（犬山城から5分） 外からの見学で約5分
信長の実弟である織田有楽斎は晩年、武家を棄て京都建仁寺の正伝院を隠棲の地とした。如庵はその境内に1618年頃建てた茶室であり、現存する国宝茶席三名席の一つである。旧正伝院書院は如庵に連なる隠居所であり、重要文化財に指定されている。明治以降、これらの遺構は各地を転々としたが、有楽の生れ故郷に帰りつき、安住の地を犬山に得て、「有楽苑」と名付け後生に残すことになった。

- ⑩ 名鉄犬山遊園駅へ 16:19（有楽苑から8分） 16:34 発の豊橋行き特急

- ⑪ 名鉄名古屋駅へ 17:02（犬山遊園駅から約28分）

- ⑫ バンケットルームへ（総会・懇親会 17:30 スタート）

※犬山城下町周遊券 600円（会費で一括徴収） 会費 6,600円

国宝犬山城+城とまちミュージアム+どんでん館